

製品名: YB-1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab19987**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,IHC,ICC/IF,ELISA |
| 反応性 | ヒト、マウス、ラット |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|---|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000 |
| 分子量 | 36kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|--|
| 遺伝子名 | YBX1 |
| 別名 | YBX1; NSEP1; YB1; Nuclease-sensitive element-binding protein 1; CCAAT-binding transcription factor I subunit A; CBF-A; DNA-binding protein B; DBPB; Enhancer factor I subunit A; EFI-A; Y-box transcription factor; Y-box-binding protein 1; YB- |
| 遺伝子 ID | 4904.0 |
| SwissProt ID | P67809 |
| 免疫原 | 抗血清はヒト YBX1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 68-117 |

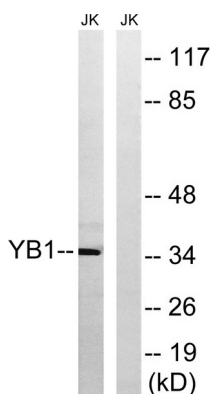
背景

この遺伝子は、広範な核酸結合特性を持つ、高度に保存されたコールドショックドメインタンパク質をコードしています。コードされているタンパク質は DNA と RNA の両方の結合タンパク質として機能し、転写と翻訳の調節、pre-mRNA スプライシング、DNA 修復、mRNA パッケージングなど、多くの細胞プロセスに関与しています。また、このタンパク質はメッセンジャーリボ核タンパク質 (mRNP) 複合体の構成要素でもあり、マイクロ RNA のプロセッシングに関与している可能性があります。このタンパク質は非古典的経路によって分泌され、細胞外マトリックスとして機能します。この遺伝子の異常発現は、多くの組織における癌の増殖と関連しています。この遺伝子は、特定の癌における予後不良および薬剤耐性の予後マーカーとなる可能性があります。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。この遺伝子の擬似遺伝子は、複数の染色体上に存在します。[RefSeq 提供、2015 年 9 月]、機能: pre-mRNA のスプライス部位に結合し、スプライス部位の選択を制御します。細胞質 mRNA に結合し、安定化させる。mRNA と真核生物の翻訳開始因子との相互作用を調節することで、翻訳制御に寄与する (類似性による)。HLA クラス II 遺伝子など、Y ボックス (5'-CTGATTGGCCAA-3') を含むプロモーターに結合する。多数の遺伝子の転写を制御する。ミスマッチを含む、またはシスプラチンによって修飾された DNA 鎖の分離を促進する。エンドヌクレアーゼ活性を有し、二本鎖 DNA に切断や切断を導入する可能性がある (in vitro)。DNA 修復において役割を果たす可能性がある。、PTM: DNA を損傷する因子に反応して、20S プロテアソームプロテアーゼによって切断される。切断はユビキチン化および ATP が存在しない状態で起こる。得られた N 末端断片は核内に蓄積する。、PTM:リン酸化がない場合、タンパク質は細胞質内に保持される。、類似性:1つの CSD (コールドショック) ドメインを含む。、細胞内局在:核と細胞質の間を往復する。増殖細胞では主に細胞質に存在する。細胞傷害性ストレスや DNA 損傷は核への移行を促進する。、サブユニット:細胞質メッセンジャーリボ核タンパク質粒子 (mRNP) の構成要素。AKT1、SFRS9、THOC4、MSH2、XRCC5、WRN、NCL と相互作用する。ホモマー型 (EFI-A) n として、または EFI-B と共役してヘテロマー型として DNA に結合することができる。ATP 存在下ではホモダイマーとなる。、

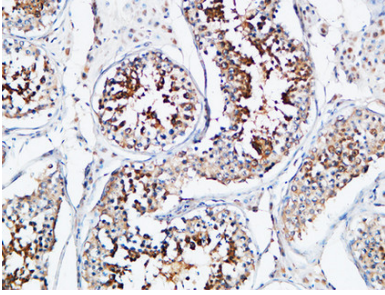
研究分野

タグとセルマーカー

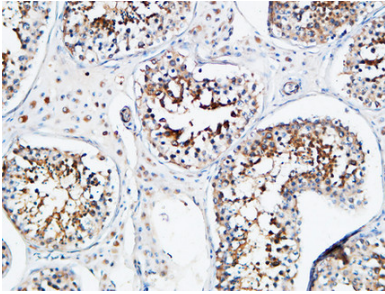
画像データ



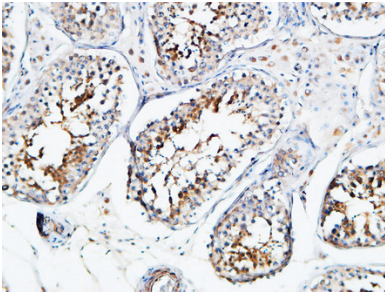
YB1 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



パラフィン包埋ヒト胎盤の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト胎盤の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト胎盤の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。